

2019年3月期 本決算 2020年3月期 業績予想 説明資料

株式会社高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

2019年3月期 本決算

1-1. 2019年3月期 TCG:業績(連結)推移

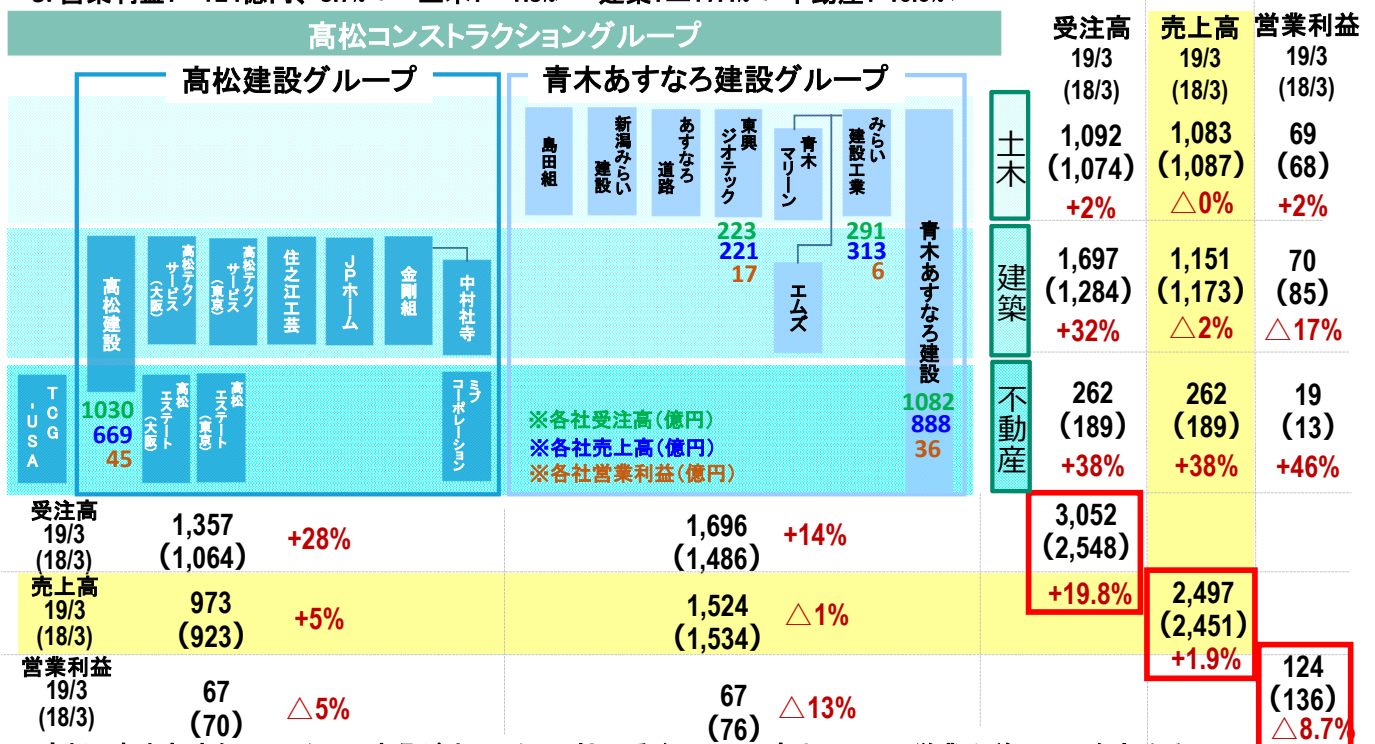
- 1. 受注 : 過去最高、対前期 +19.8%↗
- 2. 売上高 : 7期連続増収、5期連続過去最高。
- 3. 営業利益 : 対前期 Δ8.7%↘
- 4. 親会社株主当期純利益 : 対前期 Δ11.7%↘
- 5. 受注期末繰越高 : 7期連続増額、4期連続過去最高。

(過去最高=)
 単位:億円
 億円未満切捨

項目	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	増減率 (%)
1. 受注高	2,256	2,377	2,564	2,548	3,052	+19.8%
2. 売上高	1,892	2,088	2,141	2,451	2,497	+1.9%
3. 営業利益 (営業利益率%)	71 (3.8)	104 (5.0)	129 (6.0)	136 (5.6)	124 (5.0)	Δ8.7%
営業外収支	0	0	Δ0	0	Δ0	—
経常利益 (経常利益率%)	72 (3.8)	104 (5.0)	129 (6.0)	137 (5.6)	124 (5.0)	Δ9.3%
特別損益	20	Δ6	Δ9	Δ11	Δ8	—
4. 親会社株主当期純利益 (当期純利益率%)	63 (3.4)	57 (2.8)	65 (3.1)	79 (3.2)	70 (2.8)	Δ11.7%
5. 期末繰越高	1,947	2,235	2,659	2,756	3,312	+20.1%

1-2. 2019年3月期 TCG:グループ別 受注高・売上高・売上総利益 (連結)

- 1. 受注高: 3,052億円、19.8%↗ 土木・建築・不動産とも↗
- 2. 売上高: 2,497億円、1.9%↗ 土木: Δ0.4%↘ 建築: Δ1.9%↘ 不動産: 38.2%↗
- 3. 営業利益: 124億円、8.7%↘ 土木: 1.8%↗ 建築: Δ17.4%↘ 不動産: 46.0%↗

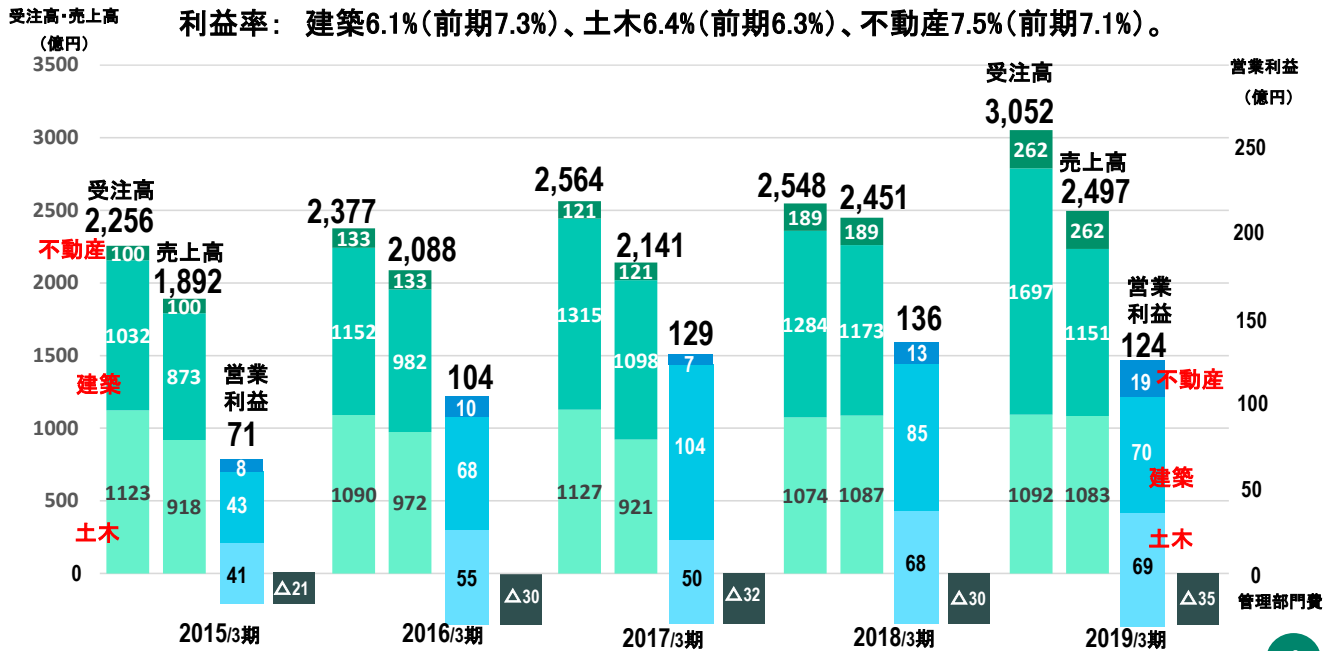


4. 高松、青木あすなる、みらい、東興ジオテックの4社で受注の86%、売上の84%、営業利益の85%を占める。

単位:億円。 管理部門費等があるため、営業利益のセグメントごとの合算値は全社合計と一致しない。

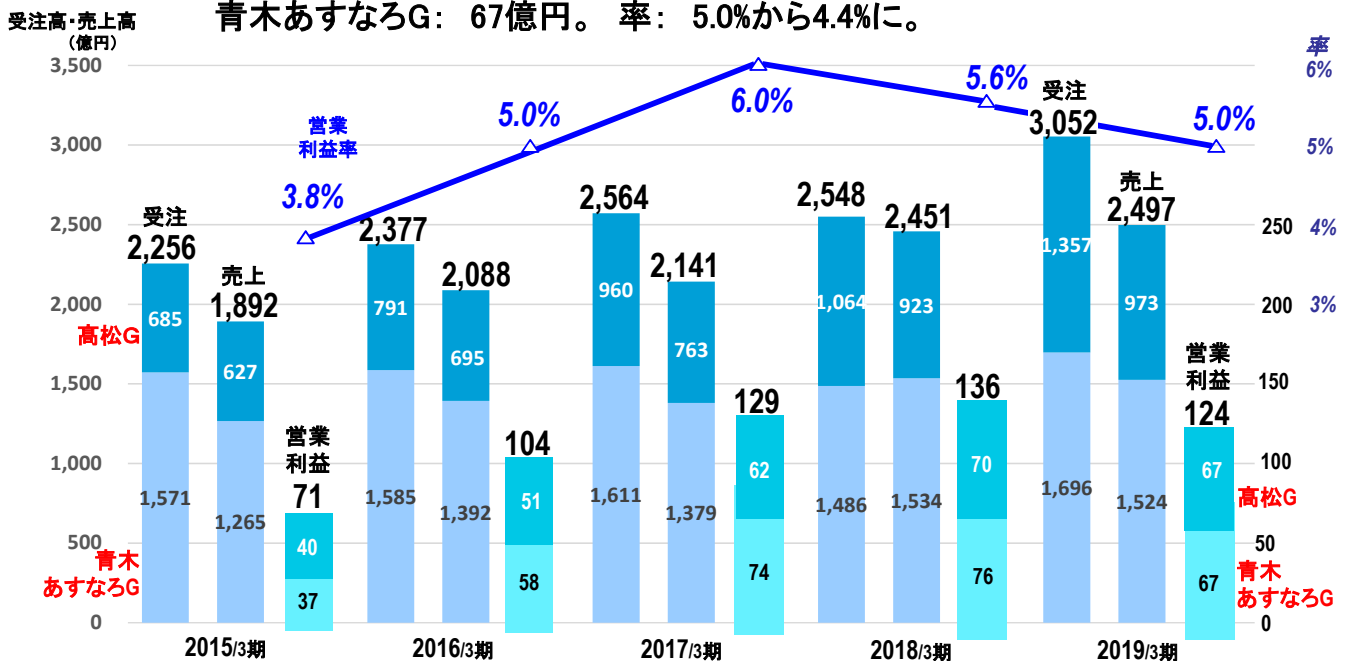
1-3. 2019年3月期 TCG:セグメント別 受注高・売上高・営業利益(連結)

- 【受注】** 3,052億円、対前期+19.8%。日建連97社の+7.1% に比べ大幅増。
 (建築 +412億円、+32%。土木 +18億円、+2%。不動産 +72億円、+38%)
- 【売上】** 2,497億円、対前期+1.9%。(建築 △22億円、△2%。土木△4億円、△0%。不動産 +72億円、+38%)
- 【営業利益】** 建築： 70億円、対前期 △14億円。土木： 69億円、対前期 +1億円。
 不動産： 19億円、対前期 +6億円。
 利益率： 建築6.1%(前期7.3%)、土木6.4%(前期6.3%)、不動産7.5%(前期7.1%)。



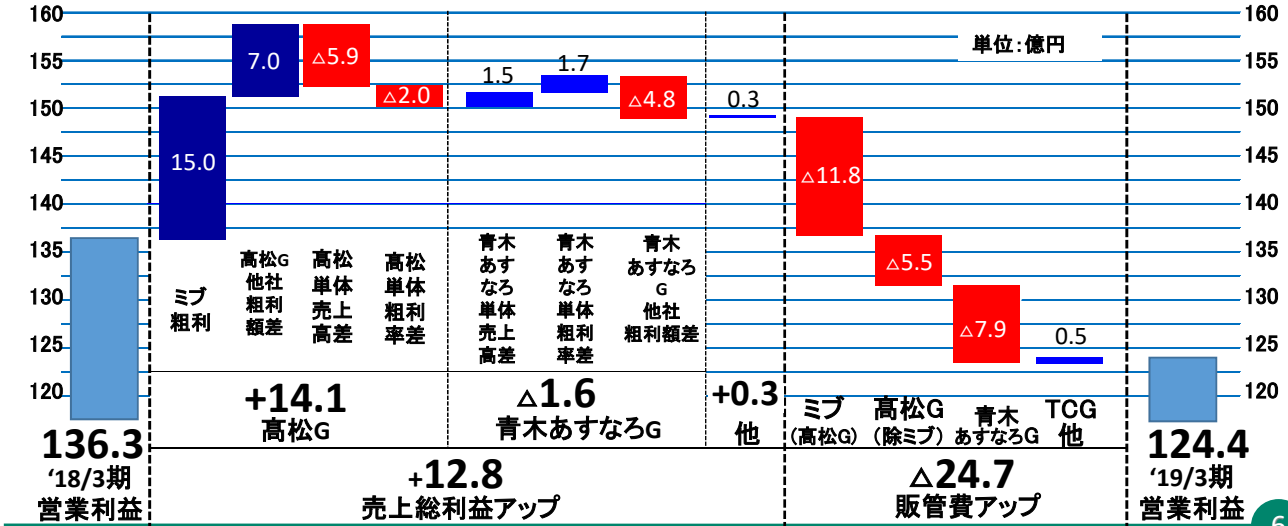
1-4. 2019年3月期 TCG:グループ別 受注高・売上高・営業利益(連結)

- 【受注】** 高松G： 1,357億円、+27.5%。青木あすなるG： 1,696億円、+14.1%。
- 【売上高】** 高松G： 973億円、+5.5%。青木あすなるG： 1,524億円、△0.6%。
- 【営業利益】** 高松G： 67億円。率： 7.7%から6.9%へ。
 青木あすなるG： 67億円。率： 5.0%から4.4%に。



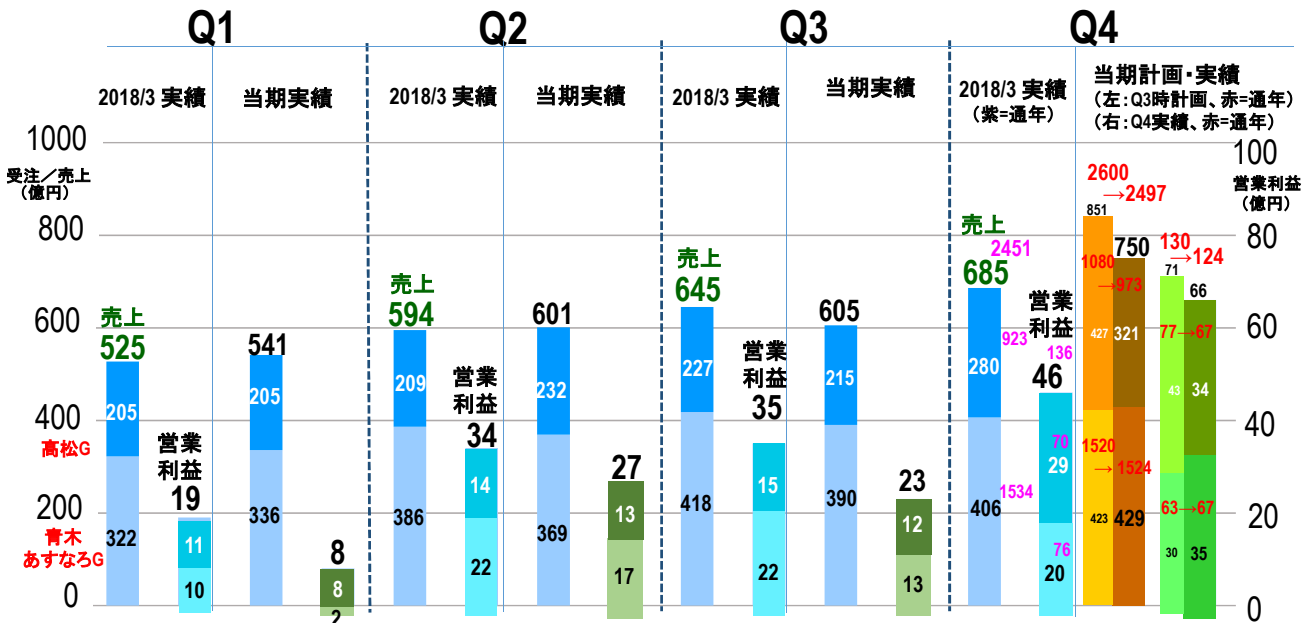
1-5. 営業利益(連結)の対前年差異説明

- 営業利益は前期の136.3億円から124.4億円に11.9億円減。
→ 売上総利益12.8億円の増に対し、販管費が24.7億円増加したため。
- 高松Gの売上総利益14.1億円増のうち、新たにグループ会社に加わったミブの売上総利益は15.0億円。
- 高松建設単体は売上高、売上総利益率ともに減少。着工までの時期の長期化などによる売上高差が5.9億円と大きい。
- 青木あすなるGの売上総利益は1.6億円減。青木あすなる単体は売上高、粗利率ともに微増で対前年増。
「青木あすなるG他社」△4.8億円は、みらい建設のダウンが大きい。
- 販管費は全体で24.7億円の増。
→ 新規加入のミブが11.8億円、TCG USAが1.1億円、両社除くと11.8億円アップ。
→ 高松建設単体は5.9億円の増。
→ 青木あすなるGの7.9億円の増のうち、青木あすなる単体が6.7億円を占める。



1-6. グループ別 四半期別 売上高・営業利益 (連結)

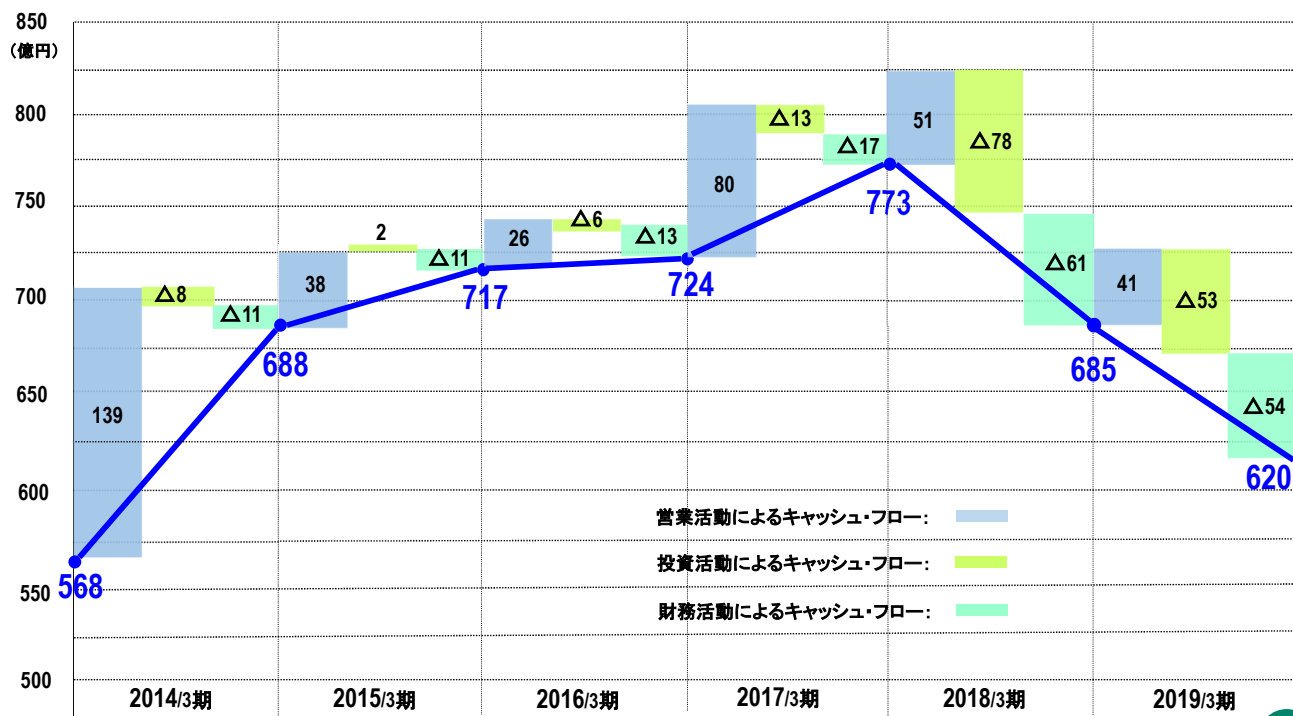
- 第4四半期は両Gとも売上高・営業利益対前年超え。多数の完成工事あり、対計画も猛追。
→ 青木あすなるGは対計画も売上高・営業利益オーバー。
- 高松Gは第4四半期計画におよばず。売上高未達の中心は高松建設、着工時期の遅れ、資材調達難が悪影響。
- しかしながら通年の営業利益は124億円、対外発表の130億円には5億円強及ばず。
- 純利益も対外発表の72億に2億円及ばない70億円なるも、配当は60円/株で据え置き、配当性向29.7%に。



単位:億円。 TCG単体・連結調整等があり、グループごとの営業利益の合算値は全社合計と一致しない。

1-7. 2019年3月期 TCG: キャッシュ・フローと現預金残高(連結)

1. 現預金残高は、18/3期末:685億円に対し、19/3期末:620億円と、△65億円。
2. TCG USAによる固定資産取得15億円、TCG東京移転手付金11億円、ミブによる販売用不動産の仕入れ増などによる。



1-8. 2019年3月期 TCG: 貸借対照表(連結)

1. 資産合計⇒ 1,905億円、対前期+56億円、+3.1%。現預金↘ 固定資産↗。
2. 純資産合計⇒ 1,181億円、対前期+41億円、+3.6%。

(単位: 億円)

勘定科目	2018/3期	2019/3期	増減額
流動資産	1,521	1,541	20
現金預金	685	620	△64
受取手形・完成工事未収入金等	681	722	40
販売用不動産	75	101	25
未成工事支出金	7	15	8
不動産事業支出金	7	6	△1
未収入金	52	62	9
繰延税金資産 (注)	-	-	-
その他	12	13	0
貸倒引当金	△2	△1	1
固定資産 (注)	327	363	36
有形固定資産	199	225	25
無形固定資産	4	20	15
投資その他の資産 (注)	123	118	△5
投資有価証券	64	52	△11
繰延税金資産 (注)	36	38	1
その他	25	30	4
貸倒引当金	△2	△2	0
資産合計	1,848	1,905	56

勘定科目	2018/3期	2019/3期	増減額
流動負債	582	597	14
工事未払金	325	309	△15
未払法人税等	23	17	△6
未成工事受入金	110	153	42
その他	122	117	△5
固定負債	126	127	0
退職給付に係る負債	106	109	2
繰延税金負債 (注)	2	0	△2
その他	17	17	0
負債合計	709	724	15
株主資本	1,000	1,051	51
資本金	50	50	-
資本剰余金	3	5	1
利益剰余金	1,021	1,070	49
自己株式	△74	△74	-
その他包括利益累計額	△3	△11	△7
非支配株主持分	143	141	△2
純資産合計	1,139	1,181	41
負債純資産合計	1,848	1,905	56

注: 以下の会計基準の変更により、2018年3月末の数値を遡及修正(全上場企業実施)しています。

→繰延税金資産は固定資産に一歩化。繰延税金資産・負債が双方ある会社は、流動・固定の別なく相殺できるようになった。

2020年3月期 業績予想

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

2-1. 2020年3月期に向けての環境認識（新中計「Create! 2022」より）

市場環境は楽観を許さない...

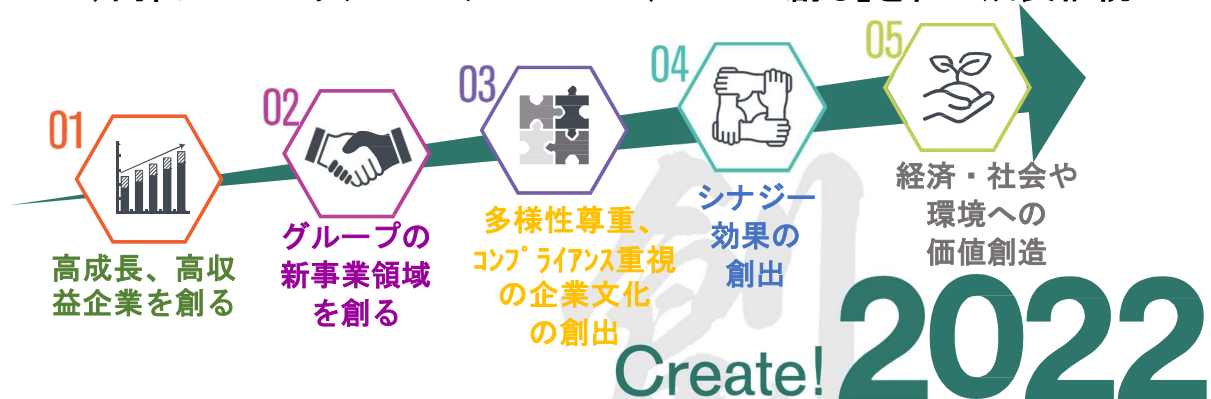
プラス要因

- 国内建設投資額は50兆円超水準を今後3年は持続と見る。
- 東名阪の世帯数は高水準を持続と予想。
- 東名阪の土地有効活用ビジネスは堅調継続を予想。賃貸マンション以上に非マンション需要の伸びが高いと見る。

マイナス要因

- 国内建設投資は中計終了年度の2022年以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 新設工事件数の減少。
- 大都市圏の建替案件の着工時期が長期化。
- 賃貸マンション等の需要は金利上昇がリスク。

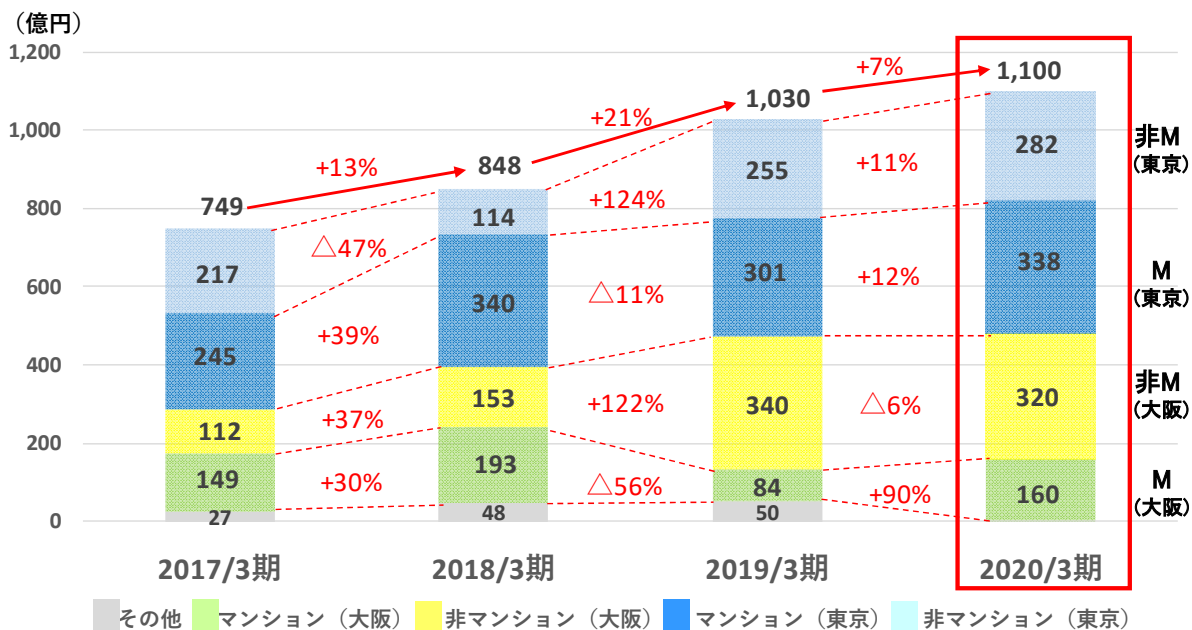
しかし、高松コンストラクショングループは、5つの「創る」を柱に成長継続！



新中計初年度の2020年3月期は目標必達！

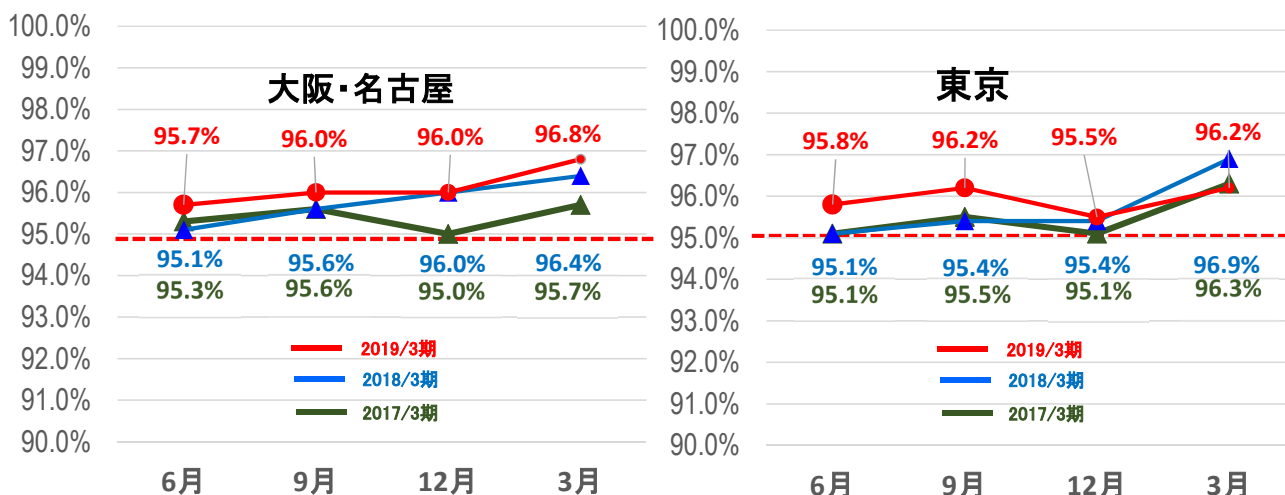
2-2. 高松建設の受注実績と今後の見通し

- 2019年3月期の高松建設の受注は当初計画していた1,000億円を上回った。
- 19/3月期は近畿圏の非マンションが非常に大きく伸びた。
- 2020年3月期は受注1,100億円(+7%)とマイルドな受注の伸びとなるが、繰越受注高を売上に転換、売上高840億円(+26%)を目指す。



2-3. 高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

- 東京・大阪ともに、入居率は19/3期も95%以上を維持。
- 東名阪・都心部の賃貸マーケットは底堅い動きが継続していると考えられる。
- 東名阪・都心部でも、将来的には空き家が増加するとの見方もあるが、高松建設が注力している主要駅周辺に関しては、足元の需要は堅調。



定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市

「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

「入居率」=各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が管理している高松建設施工物件の入居戸数

÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が管理している高松建設施工物件の総戸数

2-4. タカマツハウスの設立、およびタツミプランニングのグループ参画について

タカマツハウスとタツミプランニングは、2018/4月にグループに参画したミブコーポレーションとともに、戸建住宅事業に注力してまいります。高松建設グループ、青木あすなる建設グループに続く、第三の柱にすべく、グループの総力を挙げて推進します。



タツミプランニング 本社

■タカマツハウス

設立 : 2019/4月

事業内容: タツミプランニングがおこなう木造戸建住宅事業およびミブコーポレーションがおこなう不動産関連事業の企画・管理

■タツミプランニング

グループ参画 : 2019/5月

設立 : 2019/5月

(旧タツミプランニングからの会社分割により5月15日に設立予定)

事業内容 : 木造戸建住宅の設計施工、およびリフォーム

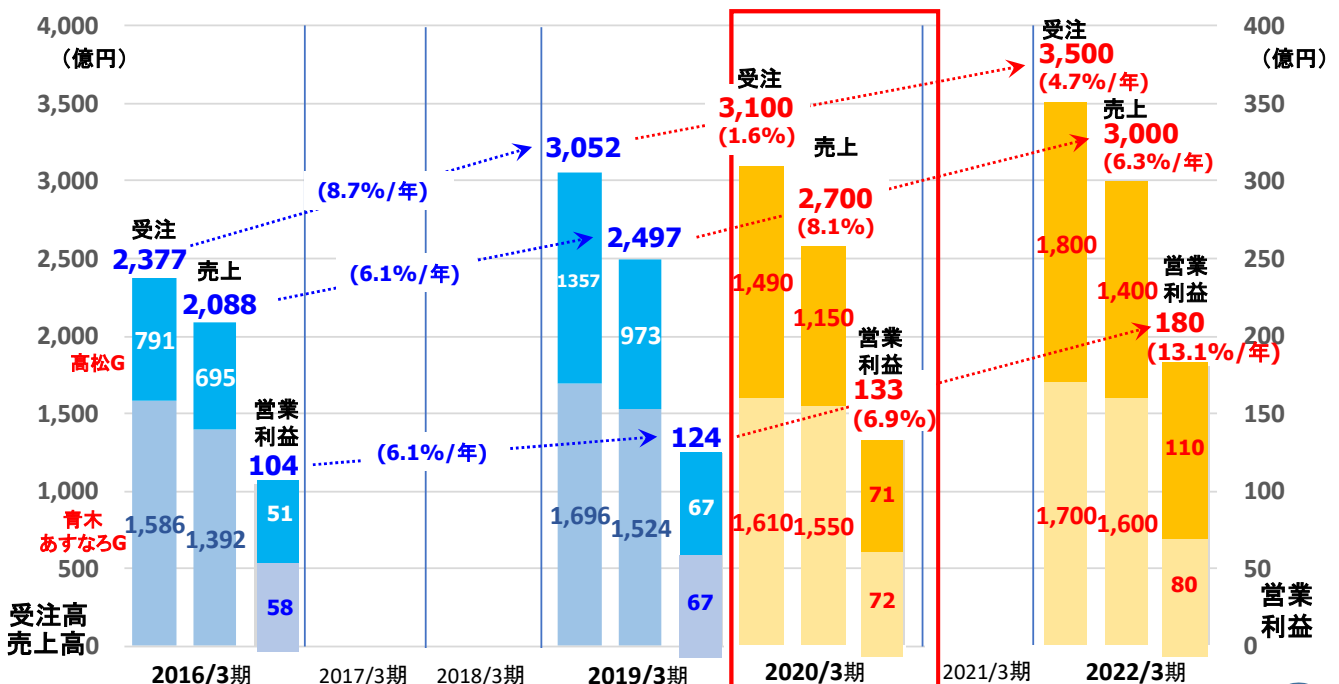


タツミプランニング 施工物件

2社ともに、2020年3月期の受注・売上高に通年ベースで連結され、受注・売上高の増加に貢献予定。

2-5. 2020年3月期 業績予想 と 新中計「Create! 2022」

1. 受注高 : 3,100億円、19/3期受注好調もあり1.6%と低い伸び。高松G+10%、青木あすなるGは微減。
2. 売上高 : 2,700億円。高松G+18%、青木あすなるG+2%。
3. 営業利益 : 133億円、19/3期124億円から+6.9%伸長。高松G67→71億円、青木あすなるG67→72億円へ。
4. 純利益 : 73億円、19/3期70億円から+4.0%伸長を目指す。



2-6. 2020年3月期と新中計「Create! 2022」の業績予想

1. 新卒の採用は、将来に備え積極的な採用を継続、持続的成長につなげる。
2. 1人あたり営業利益は、20/3期は19/3期と同レベルなるも、以降逆転させ、22/3期(中計最終年)には過去水準への復帰をめざす。
3. ROEも20/3期は19/3期と同レベルなるも22/3期(中計最終年)は9.0%をめざす。
4. 配当性向は従来目標であった「25%以上」から19/3期に一段飛躍し29.7%。
この水準を維持し20/3期以降も30%以上を継続したい。

項目			2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2022/3	
			実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	19/3比増減
人員	従業員数	(人)	3,372	3,577	3,915	4,200	4,800	22.6%
	新卒採用者数	(人)	161	178	238	218	256	7.6%
生産性	1人あたり営業利益	(百万円)	3.8	3.8	3.2	3.2	3.8	18.0%
効率性	ROE	(%)	7.0	8.1	6.9	6.9	9.0	+2.1p
	1株あたり純利益(除・自己株式)	(円)	183	223	202	210	310	53.5%
還元性	配当性向	(%)	23.5	25.1	29.7	30.0	30.0	
	1株あたり配当額	(円)	43	56	60	63	93	55.0%